

中央電気倶楽部月報

◎巻頭言

「長いような短いような」

／株式会社きんでん 会長 生駒 昌夫 氏

◎中央電気倶楽部創立109周年記念特別講演会講演録

『ウクライナ戦争後の脱炭素とエネルギー政策』

／キャノングローバル戦略研究所 研究主幹 杉山 大志 氏

2022
12
Vol.846

中央電気倶楽部月報

令和四年十二月一日発行 一般社団法人中央電気倶楽部 〒530-0004 大阪市北区堂島浜一丁目二十五番 電話〇六―六三四五―六三五一(代) FAX〇六―六三四五―六八七七



倶楽部からのご案内

新春講演会開催のご案内

令和五年の新春講演会を(一社)日本電気協会関西支部との共催で開催いたします。

本講演会は近畿経済産業局長を講師に迎えて、関西経済の未来についてお話しいただく新春の恒例行事です。

皆様方多数のご来場を歓迎いたします。

日時 令和五年一月十六日(月)
十四時～十五時

場所 (一社)中央電気倶楽部五階大ホール

演題 「関西経済の未来に向けて」
～ウイズ/ポストコロナの時代～

講師 近畿経済産業局長
伊吹 英明 氏

聴講料 無料
*都合により変更する場合がございます。

定員 一一〇名(先着順)

申込方法 倶楽部事務局に電話、FAXまたはEメールで所属団体名、役職名、氏名をご連絡下さい。お名前を登録いたします。(日本電気協会関西支部会員の方は関西支部にお願いします。)

締め切り 令和五年一月十日(火)
ただし、先着百十名様で締め切ります。

TEL 〇六―六三四五―六三五一(代)
FAX 〇六―六三四五―六八七七
Eメール info-cd@chuodenki-club.or.jp

食堂営業のご案内

九月新たに参入頂いた株式会社メデイサスの食堂営業は、次の通りとなっております。

順次営業時間、内容を充実していく予定でございますので、宜しくお申し込み申し上げます。当倶楽部は、今後とも会員様のご期待に沿えるよう努めて参りますので、是非、皆様のご利用をお願いいたします。

営業場所	「三階・倶楽部大食堂(特別食堂を含む)」 「二階・倶楽部喫茶・一九三〇」
メニュー	「食堂」メニュー 「喫茶」メニュー 「喫茶・倶楽部食堂」は当面一週間前までに「予約専用電話」 「予約専用電話」 (〇八〇九一六六六七九六二) 月～土曜日(祝日除く) 十一時～十八時
ご利用方法	当面「予約無し」の注文はお受けできません。また、「予約無し」は営業休止しておりますので、予めご承知お願います。
その他	「予約取消 数量変更時」は「キャンセル料」は次の通り キャンセル時 または 数量変更時 の原則取扱 一 営業日前以降 当日まで 全額支払要 二 営業日前の午後以降 半額支払要 三 営業日前の午前中以前 不要

◆ ランチメニュー ◆



- ◇ サービスランチ(週替わり料理) ￥2,200
- ◇ 倶楽部ディナー(肉or魚料理) ￥4,500
- ◇ 幕ノ内弁当 ￥2,000～
- ◇ お任せプラン ￥3,000～
※ご予算に応じてご用意させていただきますので是非ご相談下さい。
- ◇ 飲み放題 ￥2,000～

ビーフステーキランチ ￥2,500
シーフードランチ ￥2,500
ロースポークランチ ￥2,500
ロースチキンランチ ￥2,500
※すべてのランチにスープ、サラダ、パン、デザート、コーヒー付

◎メニュー例(価格は税込)



屋上稲荷社

十二月のスケジュール

一	木	写真部審査会(二二三号室)
二	金	午さん会 講演『わが国のサイバーセキュリティ能力の現状と課題について』 NTT サイバー専門家 松原 実穂子 氏
三	土	撞球部例会
四	日	
五	月	青年会総会・忘年懇親会(特別会議室・特食)
六	火	文化・集会委員会(特別会議室)
七	水	食堂委員会(特別会議室) ゴルフ部例会(花屋敷GC) 絵画部(B一〇号室) 社交ダンス教室(B一〇号室)
八	木	図書委員会(特別会議室)
九	金	午さん会 講演『面白いほどスッキリわかる！世界の気候と天気のおしくみ』 サイエンスライター 今井 明子 氏 気象予報士
十	土	電社総会・忘年懇親会(五二三号室・ホール・食堂) 囲碁部例会
十一	日	
十二	月	
十三	火	
十四	水	社交ダンス部総会(二二三号室)・忘年懇親会
十五	木	テナント代表者懇談会(三二六号室・特食)
十六	金	午さん会 講演『最近の電力需給とその背景について』 関西電力株式会社 エネルギー・環境企画室 エネルギー・環境政策グループ チーフマネージャー 辻森 耕太 氏
十七	土	撞球部総会・忘年懇親会(二二五号室・三〇三号室) 初・中級者向け囲碁教室(十時～十二時・二〇五号室) 囲碁部指導 麻雀部例会(麻雀室) いなづま句会・忘年懇親会(三二七号室・特別食堂)
十八	日	
十九	月	
二十	火	
二十一	水	
二十二	木	
二十三	金	
二十四	土	
二十五	日	
二十六	月	理事会(十一時～十三時・特別会議室他)
二十七	火	
二十八	水	午後から休館
二十九	木	休館日
三十	金	休館日
三十一	土	休館日

※予定変更の場合は改めて連絡いたします。

目次

12月のスケジュール — 2
1月の予定
年賀交歓午さん会案内 — 4
巻頭言 — 5
絵画 — 6
講演録 — 7~16
倶楽部だより — 17
同好会だより — 18~19
倶楽部からのご案内 — 20

創 立：大正3年11月
建物(本館)：昭和5年竣工
会 員 数：1,448名

法人指定会員 1,203名
個人会員 245名
(R.4.11.未現在)

十二月の午さん会講演

◎十二月二日(金)
講演『わが国のサイバーセキュリティ能力の現状と課題について』
NTT サイバー専門家 松原 実穂子 氏

◎十二月九日(金)
講演『面白いほどスッキリわかる！世界の気候と天気のおしくみ』
サイエンスライター 今井 明子 氏
気象予報士

◎十二月十六日(金)
講演『最近の電力需給とその背景について』
関西電力株式会社
エネルギー・環境企画室
エネルギー・環境政策グループ
チーフマネージャー 辻森 耕太 氏

○年末年始休館日のお知らせ
十二月二十八日(水)午後から休館
一月四日(水)より平常どおり開館させていただきます。

一月の午さん会講演(予定)

◎一月十七日(火)
年賀交歓午さん会 十二時～十三時三〇分

◎一月二十七日(金)
講演『平安人の心で「源氏物語」を読む』
京都先端科学大学
人文学部教授 山本 淳子 氏

◎一月十六日(月) 十四時～十五時(五階大ホール)
新春講演会(日本電氣協会関西支部・中央電氣倶楽部共催)
講演『関西経済の未来に向けて
『ウイズ/ポストコロナの時代』』
近畿経済産業局長 伊吹 英明 氏

(都合により変更する場合がございます。)

午さん講演会にご出席のおすすめ

毎週金曜日の午さん講演会は、下記の要領で開催いたしておりますので、多数ご出席ください。

出席資格：倶楽部会員およびご同伴の方、会員会社の社員の方

時 間：12時～13時40分頃
(講演12時40分～13時40分)

場 所：3階大食堂

食 代：一人2,200円(税込)

予 約：不要

着 席：自由着席

年賀交歓 午さん会 ご案内

一、日時 一月十七日(火) 十二時から

一、会場 当倶楽部三階大食堂

一、次第 ・津賀理事長挨拶

・受章者紹介

・祝宴(十三時三〇分頃閉宴)

「箏で寿ぐ新春の調べ」

大阪音楽大学

特任准教授

片岡 リサ氏

○お繰合わせの上ご出席下さいますようご案内申し上げます。

なお、準備の都合上、事前に事務局にお申込み下さい。

「長いような短いような」

生駒 昌夫
(株式会社きんでん 会長)



先日、とあるテレビ番組で「鉄道開業百五十年」という特集を取り上げていた。一八七二年(明治五年)、新橋―横浜間のおよそ二十九kmを結ぶ我が国初めての鉄道が開通した。本来であれば関西まで一気に結ぶ計画が持ち上がったものの、実現には莫大な資金が必要であったことから断念されたが、推進派の強い気持ちもあり、大幅に縮小されたものの何とか開通にこぎつけた。

そこでふとあることに気づき、驚いた。鉄道開通は、一八五三年(嘉永六年)の黒船来航からわずか十九年後のことであり、「開国」「攘夷」「倒幕」「明治維新」という大きな変化はこんなにも短い期間での出来事であったのかと。

十九年とはどれだけの年月なのか。現代のデジタル分野での出来事に置き換えてみるとイメージしやすいかもしれない。初期のiPhoneが登場したのが二〇〇七年、今から十五年前のことである。もう少し遡って二十二年前の二〇〇〇年には「IT革命」という言葉が広く浸透し、流行語大賞にもなった。そう考えると我々は随分と長い間「IT化を進めなければならない」と言い続けているように思う。

GAF Aと呼ばれるアメリカの巨大IT企業たちはこの二十年で爆発的な急成長を遂げ、世界の時価総額ランキングでは上位を独占している。黒船来航時のように始めから圧倒的な戦力差があったわけではないのに、気が付けば猛烈なスピードで追い越されてしまった。

急成長といえば日本が中国に国内総生産で世界二位の座を奪われてしまったのが二〇一〇年。その後十年、日本経済が停滞している間に中国は急成長し、GDPは日本の約四倍にまで拡大した。

このように十年、二十年あれば世界の様相は驚くほど変化するが、「そんなに月日が経ったのか」と思うこともある。アポロ十一号が月面に降り立ったのが一九六九年であるから黒船来航から百十六年後のことである。日本が開国して百年後に人類は地球を飛び出していた。

人生百年時代と聞くと、少し身近なことのようにも思えてくるから不思議だ。長いような短いような、次の百年で世界はどう変わっているのだろうか。

CLUB GRAF くらぶ・ぐらふ

<p>◎午さん会(9月9日) 『サガレン(樺太)を旅して ～日本との歴史を顧みる～』</p> <p>ノンフィクション作家 <small>かげほし</small> 梯 久美子 氏</p> 	<p>◎午さん会(9月16日) 『町家数寄屋大工さんの技など 伝統技術の伝承等』</p> <p>(株)猪谷工務店 代表取締役 猪谷 勇三 氏</p> 	<p>◎午さん会(9月30日) 『食糧危機とその備え ～ウクライナ侵攻の教訓～』</p> <p>キャングローバル戦略研究所 研究主幹 山下 一仁 氏</p> 
--	--	--

はじめに
本日は「ウクライナ戦争後の脱炭素とエネルギー政策」と題してお話しします。前半はなぜ脱炭素をしなければならぬのか、どこまで脱炭素をしていかなければならないのかについて考え、後半はウクライナ戦争後の情勢を踏まえて、これからエネルギー政策はどのように変わっていくのか、あるいは変わっていくべきかというお話をしていきたいと思っています。

「観測データから見る気候変動」
メディアではよく「災害は激甚化している」といっています。昨年初めのNHKスペシャルで、台風による大洪水で家が流されてしまった、これは人類生存の危機だというアナウンス付きで、濁流に押し流されそうになる家の映像が流されていました。そして、このままではもつとたいへんなことが起きてしまうと予言じみた予測をし、だから我々は行動

を変えなければならぬと結び。まさにひとつのストーリーとなっていました。映像を流し、予言し、物語を語る。まさに宗教の布教のやり方であって、科学的なやり方ではありません。ですから、これからいくつ観測データをみていきます。
大気中のCO₂濃度は、たしかに過去四十年のCO₂濃度は増え、四一〇ppmほどになっていますが、増えたといいますが、空気中で〇.〇四一%ほどの増加です。また、百年前のCO₂濃度は二八〇p



キヤノングローバル戦略研究所
研究主幹

杉山 大志 氏

中央電気倶楽部創立一〇九周年記念特別講演会講演録

『ウクライナ戦争後の脱炭素とエネルギー政策』

すぎやま たいし 杉山 大志 氏 プロフィール

経 歴 出身：神奈川県
1991年 東京大学 理学部物理学科卒業
93年 同大学大学院 工学研究科物理工学修士了
(財)電力中央研究所入所(～2017年)
国際応用システム解析研究所(IIASA) 研究員等を経て
2017年 キヤノングローバル戦略研究所 上席研究員
19年～ 現職
専門：温暖化問題、エネルギー政策

著 書 『脱炭素は嘘だらけ』(2021年 産経新聞出版)
『脱炭素のファクトフルネス』(2021年 電子書籍出版代行サービス)
『SDGsの不都合な真実 —「脱炭素」が世界を救うの大嘘』(2021年 宝島社)
『15歳からの地球温暖化 — 学校では教えてくれないファクトフルネス』(2022年 育鵬社) 等多数



「五代友厚」— 大阪の虚業(カジノ)開設を叱る 個人会員 杉本 末雄 君

作者のひと言

「北浜」での絵画クラブの写生会で描いた五代友厚の彫像です。この絵画から、真っ先に思い出されるのは、このとき、隣り合わせて写生を描かせていただいた先輩、榎崎正博様(元関西電力副社長)とのさまざまありがたい思い出です。コロナ禍のためご葬儀でのお別れもできず昨年八月一日にご逝去されました。合掌。
五代(一八三六―一八八五)は、薩摩武士ながら、当時の「大阪経済の低迷」を打開し、大阪商人の伝統である信用第一主義に則り、大阪の繁栄を軸に、大阪の実業家の育成と団結により大阪経済を復興された、大阪の大恩人です。五代は商人である前に「正義」「大儀」を重んじる武士でもあり、現況の品位のない大阪の振る舞い、「ばくち場(カジノ)の開設」には、「大阪商人の伝統と品位を忘れたのか!」とカツ!!

(絵画部 杉本 末雄)

p mほどでしたから、一・五倍くらい増加したわけですが、これは人間が化石燃料を使うことで出してきたCO₂量と釣り合います。CO₂濃度は人が大勢集まった部屋で換気をやめればたちまち一〇〇〇ppmほどにまで跳ね上がりまします。しかし、だからといって人が死んだり倒れたりはしません。大気中のCO₂濃度の増加も、それ自体は問題とはならないのです。

次に、過去百四十年ほどの日本の平均気温ですが、確かに上がっています。三十年ほどでみれば〇・二度の上昇にしか過ぎません。地球温暖化が起きているといわれていますが、人間が感じることでできないわずかな変化がゆっくりと起きているだけなのです。「大阪は暑くなったな」とかいうのは都市化によるものです。百年前と比べて、大阪は二度ほど、東京は三度ほど暑くなっています。地球温暖化は〇・七度ほどですから、東京でいえばあとの二度、大阪ではあと一度上がっているのは都市化の影響、いわゆるヒートアイランド現象です。都市化の影響のほうが地球温暖化よりも大きく、急なのです。

「災害は激甚化していない」

百年以上の時間軸で見れば、災害の物理的強さは、少し増えたり、わ

加したことになる。例えば一〇〇ミリだった雨が一〇五ミリになるほどで、激甚化とは言えません。大雨の指標のなかで流域の降雨量を示す計画降雨量という指標があり、堤防やダム規模や設計の検討に用いられます。これを見ても大雨は強くなっていない。淀川流域も過去百年、大雨の雨量が特に増えたわけではなく、今のところさらなる治水工事をしなければならぬということにはなっていない。日本のほとんどの流域で大雨の増加はありません。

CO₂排出量と降水量の関係に触れておきます。計算するのは簡単で、CO₂を一兆トン排出すれば気温は〇・五度上昇し、気温が一度上がれば降水量は六%増えるというだけです。日本は二〇五〇年にCO₂排出をゼロにするといっています。この簡単な計算式を使って二〇五〇年、CO₂排出量が現在のままの場合とゼロになった場合とを計算すれば、気温は〇・〇〇六五度低下する。仮に五〇〇ミリの豪雨があったとしても、降水量の減少は〇・一九ミリ。CO₂排出量をゼロにしても気温は〇・〇一度も下がらないし、豪雨は一ミリも減らないのです。CO₂削減は、気温にも雨にも影響しないのです。なぜCO₂の削減がさほどの影響も与えないのかといえば、ひ

ずかに減ったりを繰り返している。いろいろ探しまわっても、右肩上がり災害が大きくなってきているデータは本当にどこにもありませんでした。

台風は毎年二十〜二十五ほど発生していますが、台風の発生数のデータをみれば台風の頻発化は起きてはいません。台風そのものの強さも横ばいです。風速三十三メートル以上の強い台風の割合が増えたのかといえば、過去五十年、五十%程で変わっていません。台風の激甚化など起きていないのです。メディアは台風がくるたびに基本的なデータも確認せず、台風が激甚化している、これは地球温暖化のせいだと騒ぎ立てているわけです。

歴代のスーパー台風のランキングを見ても、三位にランクされている一九九三年の台風を除き、歴代十大台風はすべて一九五〇年代、六〇年代に発生しています。つまり、一九九三年を最後として三十年、ベ

ストテンにあがるようなスーパー台風は来ていないのです。実は今年の台風十四号は上陸時の中心気圧は九三五ヘクトパスカルでした。ランキングでは四位タイとなるのですが、地球温暖化のせいでランキングするようなスーパー台風がたくさん押し寄せてくるようになったわけではありません。たまたま三十年ぶり

とつは、そもそも温暖化はわずかでゆっくりと進行しているからです。そのために雨量もわずかの変化しかないわけです。もうひとつは、日本のCO₂排出量は世界全体の三%しかないという点です。減らそうが減らすまいが、大局に影響はありません。

「地球温暖化による自然破壊のウソ」
地球温暖化に結び付けた動物の話にはひどいものがたくさんあります。ホッキョクグマが温暖化のせいで絶滅しようとしていると言っている人たちがいますが、本当は頭数は増えているのです。一九六〇年頃は一万頭ほどしかいませんでしたが、今は三万頭を超えています。そもそも、害獣として人間が撃ち殺したり罠にかけたりしたから減っていったのが、それを止めたから頭数が増えていったというだけの話です。

温暖化によって北極の氷が溶けてなくなってしまう、居場所がなくなったホッキョクグマたちはそのせいで絶滅してしまうという人がいますが、実際は、ホッキョクグマたちは陸地になった北極に居続け、冬は氷の上でまた生き続けた。それだけの話です。

世界最高峰の科学誌「サイエンス」

にこの台風がやってきただけで、台風が激甚化している傾向はありません。温暖化のせいでもありません。

大雨については、一日雨量の年最大値、全国九十二観測地の平均雨量の中央値をみれば、過去七十年、ほぼ横ばいになっていることがわかります。地球温暖化の影響以前に、そもそも豪雨の激甚化が起きていません。

雨量というものはもとより年々変動が激しく、しかも数十年単位でも大きく変化している。そういうものはできれば百年単位でみるべきです。政府内にもメディアにも、右上がりのデータだけを部分的に切り取って、「雨量をみてください。激甚化していますよ」「これが激甚化をあらわしたグラフです」という人がいるのですが、そのグラフの切り取りや期間に注意してください。

十分間雨量、一時間雨量の場合、少し右肩上がりのグラフになることがあります。理論的には、気温が上がれば大気中に含まれる水蒸気量が増え、それが冷やされたときに雨となりやすくなるから、地球が温暖化すれば雨量が増えるという理屈です。クラウジウス・クラペイロン氏の式によると、気温が一度上がれば七%ほど雨量が増えます。しかし、地球温暖化は百年で〇・七度の気温上昇でしたから、百年間で雨量は四・九%増

に、海に浮かぶ氷の上に乗って漂流しているホッキョクグマの写真が掲載されました。しかし、これはフェイク写真と判明しました。

ナショナルジオグラフィックでもフェイク映像が流されていました。やせ衰え、飢え死に寸前のホッキョクグマの可哀そうな姿を映像で流し、これは気候変動のせいだと訴えた。映像は二十五億回も視聴され、大きな影響を与えました。ホッキョクグマがケガなどでエサを捕れなくなり、飢え死にしまうことはよくあることなのです。

また、ネットフリックスが「気候変動のせいで岩場の氷が消えたのでセイウチが転落して死んでしまっ

たぐの大口そののです。しかし、この映像が奏功し、国連気候会議に向けたキャンペーンはたいそう盛り上がったそうです。

次は、南の島が沈んでしまうという話です。

地球温暖化が起これば、「氷河が溶けるから」、「海水が熱膨張するから」という理由で百年当たり海面が二十センチ上昇する。すると、高いもので海拔二メートルほどしかないサンゴ礁の島は沈んでしまうと云われることがあります。

実際に沈んでいるのかといえ、逆に面積は増えているのです。航空写真で調べた論文によれば、面積の増減はあるものの全体として減ってはいない。マーシャル諸島のある島では、一九四三年当時に比べて面積が一三%増えています。海面が若干の上昇をしても島の面積が減らない理由は簡単です。海面が上昇すればサンゴも育つからです。

NHKでも十年ほど前、地球の温暖化でツバルが沈んでしまうと盛んにいっていましたが、最近では聞かなくなつたはずで、間違いが分かつたからだと思えます。

また、グレートバリアリーフが地球温暖化の影響でなくなりつつあるという話が一時盛り上がりつつありました。たしかにサンゴは減っていた時期はありましたが、一転、今は観

あちこちに現れていなければおかしい。しかし、先ほどから紹介しているデータや統計にそんなものは一切みえてきません。

「気候予測モデルが抱える問題」

過去の観測・統計をみる限り、気候危機などはどこにも生じていないにも関わらず、なぜ気候危機を訴える人がいるのかといえ、大気の流れの計算、流体力学の計算の際に、大気を一単位五十キロメートルに及ぶような単位に切り分けて計算する予測モデルを用いるからです。

五〇キロメートルにひとつくらいしか点のなかで生じる複雑な物理現象をすべて説明するために、モデルをつくり、パラメータをたくさん放り込む。しかし、それではCO₂濃度ひとつをとっても、それがいくらの気温上昇になるのか、人によって計算結果が違ってくる。これは、国連の諮問機関であるIPCC（国連気候変動に関する政府間パネル）もハッキリと認めています。さらにはパラメタリゼーションもあります。予測モデルで用いるたぐさんのパラメータのなかには実験や観測で決められないものがあり、代表的なものが雲の対流のパラメータです。雲が成長して雨が降るのか降らないのか、どちらにパラメータを設定してもよい。当然、これを

測史上最大の面積になつている。サンゴの面積が増減した原因はサイクロンであり、人間の増加であり、エルニーニョ現象などによる海水温の変動であり、つまりは自然変動です。この先も増減を繰り返していくだけでしょう。面積の減少は地球の温暖化とはまったく関係なかったのです。

日本の環境白書に、台風、ハリケーンによる世界の災害保険損害額が、過去五十年、右肩あがり推移していることを示すグラフが掲載されています。これは、台風もハリケーンも数そのものは増えていないし、強くもなっていないけれども、過去五十年、それまで何もなく山野が開発され、建物があちらこちらに建てられたので、そこにハリケーンが襲えば、金銭的な損害が発生するようになったことを示しているに過ぎません。つまり、このグラフは経済成長をみたものであって、温暖化による災害激甚化を示したものではありません。

似たような話でWMO（世界気象機関）でも最近、「災害が過去五十年で五倍に」と言い出しており、東京都同じことを書き立てています。何が五倍になつたのかといえ、災害の報告件数が五倍になつただけの話なのです。五十年前、開発も何もされていない場所に土砂崩れが起

どう設定するのにかよって、答えはまったく変わってきます。

例えば、最初、あるモデルをつくつたときには、三・五度の温暖化だった。そのモデルを改良したところ、今度は温暖化が七度になるといふ答えが出てきた。困つたことになつた、そうだ、雲のパラメータを変えればいいのだと、雲のパラメータの設定を変える。そうして他のパラメータの設定も変えていき、最終的に再び三・五度の温暖化にする。結局、最初のモデル通りの報告論文になるわけです。パラメータがたくさんあれば、自分の思う結果を出すことができるのですから、そうして出てきた結果に予言能力があるかは疑問です。

上空の気温をモデルで過去四十年を計算してみると、どのモデルも計算結果が実際の観測値より温暖化しすぎる傾向があります。

同じことは海水面にもいえます。海水面の温度上昇もモデルに比べて観測値は低い。よく「温暖化によって海水面の温度が上昇し、台風が激甚化する」といわれていますが、それは海水面の温度が上がりすぎていくモデルをもとにしているからです。

気温にしろ海水面温度にしろ、これだけ過去を算出した結果が現実と合わなければ普通、その予測は捨て

きて誰も報告はしません。今は開発され、建物があるから、土砂崩れで被害が出れば報告をする。その件数が増えることに何の不思議もありません。

実はハリケーンや台風による死者数は、過去百年で激減しています。世界中で死亡者数が減っているのは、防災能力が進歩したからです。

気候に関する死亡で最も多いのは腸管感染症です。夏に子供がおなかをこわして死んでしまう。日本の明治時代も、死因のトップはそれでした。この三十年ほど、たしかに〇・二度ほど気温は上昇していますが、暑さ寒さを原因として死んでしまう子どもたちは、数も率も過去三十年で激減しています。それは衛生状態がよくなり、医療も進んできたおかげです。

「暑くなればお米が獲れなくなる」という人がいます。しかし、トウモロコシ、コム、小麦、大豆といった世界の穀物の収穫量は増えていきます。肥料、農薬など、農業技術が進歩しているからです。

気候危機だ、温暖化だと主張している人たちはたくさんいます。平均気温が一・五度上昇すれば地球は破滅するという人まです。今の時点で一・一度上昇していますから、本当にあと〇・四度の上昇で地球が破滅するならば、とうに破滅の兆候が

てしまいます。ところが、過去が合っていないことは認めているのに、予測は捨てていない。国連のレポートに但し書きをつけながら、おどろおどろしい予言がそのまま出回っているのが現状です。

「当たらない予言」

地球の温暖化がいわれはじめて、かれこれ四十年ほどが経ちます。これまで、二〇二〇年には地球はこうなるという予言もたくさんありましたが、不吉な予言ほど、それらは外れています。

たとえば「二〇二〇年、キリマンジャロから雪が消える」というものがありました。アメリカのアル・ゴア副大統領（当時）が「二〇二〇年にはキリマンジャロに雪が降らなくなる」という映画をつくりましたが、ある記者が二〇二〇年のキリマンジャロの写真を撮り、「雪はありました」と報じた。

あるいは「二〇二〇年、氷河が消える」という予言もありました。この予言を受けて、二〇一〇年、アメリカのグレイシャー国立公園に「この氷河は二〇二〇年に消える」という看板が建てられたのですが、二〇二〇年になつて消えたのは氷河ではなく、その看板のほうでした。

今もなお、温暖化の悪影響で地球はこうなるという予言はたくさん流

れています。論理的にそうはならないものばかりですから、気をつけながらそういうものを見たり聞いたりしてください。

「これからのエネルギー政策」

「三つのシナリオ」

前半は科学の話でしたが、後半は政治面、エネルギー面、経済面の話へと移ります。

「シナリオプランニング」という言葉をご存知でしょうか。石油会社のシエルが始めたもので、まずは「現在」と「公式の未来」の二つを設定します。今日のお話の内容でいえば、「二〇五〇年にCO₂排出量ゼロ」「二〇三〇年にCO₂排出量半減」が「公式の未来」となります。しかし、「公式の未来」が本当にやってくると思えば、投資計画を立ててもそのとおりにならないかもしれないので、二つほどの違う未来を考えておく。その上で、複数のあり得る未来に備えた事業計画、投資計画をつくっていくというものが「シナリオプランニング」の手法です。

今日は「グレートリセット（再起動）」「グレートデレイル（脱線）」「グレートリアクション（反抗）」という三つのシナリオを使います。

例えば、民主主義国と独裁主義国の政治システムの戦いであり、超限戦であるとしています。その意味では、先進国側が勝手に弱体化していくCO₂排出量削減の話は、中国にしてみればまさに孫子の「戦わずにして勝つ」であり、それを先進国が自らやってくれているわけで、信じられないほどにありがたい話です。

一方の先進国側は、二〇五〇年にはCO₂排出量がゼロになるのだから、油田、ガス田などの投資は必要なくなるというわけで、過去二、三年にわたって石油産業、ガス産業、石炭産業も含めて、自国のエネルギー産業を痛めつけてきました。その分、OPECやロシアが力を持つようになってきたわけです。

これまでヨーロッパは、CO₂を出すから石炭はダメ、足元に埋まっているガスは環境問題の面から開発を進めないという動きを進めてきました。甚だしきはドイツです。原発をゼロにするという、風力発電に注力したものの、必要電力には足りず、結果、ロシアからのガス輸入に大きく依存するようになってしまいました。

ロシアからのガス輸入への依存度が危険なレベルにまで高まっていることを計算に入れて、プーチン大統領はウクライナ戦争を引き起こしたといっても過言ではありません。

「グレートリセット（再起動）のシナリオ」

グレートリセットは「公式の未来」です。国としてはCO₂排出量ゼロを目指し、先進国はみんなそれを目標にする。金融も製造業もグリーンになり、CO₂を出さないようにする。そうして先進諸国はグリーン経済成長を遂げ、変わらず世界の覇権を握り続ける、というシナリオです。私がこのグレートリセットのシナリオをつくり始めた一年以上前は、実際に世の中はそうなっていくのだろうと、誰もが信じていました。

グレートリセットのアイドールになっているのがグレッタ・トゥーンベリという若い女性です。彼女の話はハッキリとした反経済成長と反技術の内容で、最近ますますその傾向が激しくなっています。ヨーロッパでは草の根的な環境運動が市民権を持っていて、たとえばドイツ緑の党からは二人が外務大臣と経済気候大臣という要職についています。ヨーロッパ、特にドイツではそういう人たちが国際的な脱炭素を推進する原動力になっています。

グレートリセットのシナリオ推進で、もうひとつの大きなグループとなっているのが金融界です。彼らは昨年末、グラスゴーで開催された国連気候会議に参加し、二〇五〇年に向けて、世界の金融機関はCO₂ゼロ

つまり、脱炭素を掲げ、その方向へと突き進むもうひとつの方向性も、それはヨーロッパ自身を脆弱にしようとしたことだった。そのためにウクライナ戦争まで招くことになった。かなり罪深い政策だったと思います。

ドイツとロシアの関係と同様、先進国が脱炭素の動きを本格化すればするほど、中国依存度が高まります。なぜなら風力発電、太陽光発電、電気自動車等々、生産するには多くの材料が必要で、例えば、電気自動車のバッテリーに必要なコバルトの六割、モーター部に使う各種レアアースの九割といった具合に、かなりの割合でこれらの生産は中国に握られています。

材料に加え、環境問題、公害問題も中国に利する方向に働きます。実はアメリカには、かなりのレアアース埋蔵量があるのですが、環境規制が厳しいためにほとんど開発と生産ができません。土壌汚染の対応だけでもコストがかさみますし、開発しようとするれば反対運動も起きてしまう。先進国はどこも似たような状況ですから、わかりやすくいえば、中国へ公害輸出をする。結果、中国依存度が高まってしまっただけです。

さすがに先進国でも、それは何とかしなければならぬという共通理解が生まれているものの、行動がど

ロへの投融資を積極的に行なうと宣言しました。

しかし、大きく進みかけていたグレートリセットのシナリオは、ウクライナの戦争が起きてしまったことで、先行きがわからなくなってしまう。日本政府は脱ロシアのあとは脱炭素だとして脱炭素の看板は掲げたままでしたが、戦争が長引けばそんなことはいつていられなくなりそうです。それはヨーロッパも同じです。

「グレートデレイル（脱線）」のシナリオ

別の将来像のひとつは「グレートデレイル」、公式の未来からの脱線シナリオです。先進諸国はグリーン化に励みます。日本も励んでいます。しかしその結果、産業は空洞化し、中国依存度が高まっていく。そしてOPEC、ロシア、中国が世界を牛耳るようになり、先進諸国は没落していく。悪いことばかりが起きてしまうシナリオです。

脱炭素というものに、日本を含めた先進国は四苦八苦している一方で、中国は逆にCO₂排出量をガンガン増やしています。現行の五ヶ年計画でも元々日本の十倍あるCO₂排出量を一割増やすとなっていますので、日本の丸々ひとつ分が増えることになりました。

中国は世界をどうみているのかと

これまで伴っていくのかは疑問です。規制や激しい反対運動を乗り越えて自国で鉱山開発に踏み切ったとしても、計画をし、投資をし、実際に生産が始まるまでには何年もかかってしまう。中国が脱炭素に必要な鉱物を握っているという今の構図は、向こう五年は変わらないと思います。

グレートデレイルのシナリオはつまり、徐々に力を持つようになっていくロシアと中国を相手に、G7すなわち民主主義国が「新冷戦」を戦う構図になりつつあるということです。新冷戦でG7が勝つのは容易ではありません。

現在、ウクライナ戦争を受けてロシアに経済制裁している国は先進諸国のみであり、ほとんどの国は、ロシアはエネルギーも食料も肥料も武器も供給してくれる、まだまだ頼りになると存在だと思っている。経済制裁に参加していません。

新冷戦が民主主義vs権威主義の戦いだとしたら、勝ち目はますます薄くなります。世界を見渡せば、権威主義の国のほうがはるかに多い。アフリカはすべてそうだし、中東も同じです。民主主義国家に住んでいる人口は、世界の二四%にすぎないといわれています。

経済面からみても、中国に経済戦争を仕掛けるのは無理な話です。世界全体をみれば中国と貿易している

国が圧倒的に多いのに、「中国に経済制裁をする。参加してくれ」といったとしても、ほとんどの国は聞く耳も持たないでしょう。

昨年まで、ロシアは世界のガス輸出の四割を握っていました。EUが買わなくなり、ロシアも少し困っています。ロシアのガスを買いたい国はいくらでもあります。何年かあとになればパイプラインなどへの投資も進み、輸出先のEU依存度も薄くなっていくはず。石油の輸出量もロシアは世界の二割を占めていました。その石油も、インドも中国も買ってくれる。世界中の国が輸出先となっていますから、ロシアの石油輸出量は今もほとんど減っていません。

公式の未来から脱線したグレートデレイルの世界像とは、グレートリセットのシナリオを追いかけた結果、先進国ではエネルギーを供給する産業が減び、エネルギーを使うエネルギー集約産業も減んでしまう。石油・ガスの供給はOPEC、ロシア頼りになり、重要鉱物や製造業の依存度もますます中国に傾き、やがては牛耳られてしまう。国際政治でもG7が力を持っていた世界から、中国、ロシア、中東諸国が力を持つ世界にシフトしていく。つまり、独裁主義が勝ってしまう世界です。

ウクライナへの侵攻も可能にしているのですから、アメリカがグリーンデイルをやめ、石油、ガス、石炭の化石燃料を大事にし、積極的に増産すれば、世界中に石油やガス、石炭が安く行き渡るようになり、ロシアの収入源は目減りしていく。結果、ロシアを倒すことができる。これがルビオ氏の「最大の対口制裁は愚かなグリーンデイルをやめること」発言の意味です。

トランプ政権下で国務長官を務めたマイク・ポンペオ氏も、エネルギーをとにかく掘り出し、それを同盟国、友好国に供給すれば、アメリカの経済もそれによってよくなるのだと、「エネルギードミノ」という言葉で同じようなことをいっています。

民主党内にも同じことをいっている人たちがいます。有力上院議員であり、上院のエネルギー委員会委員長を務めるジョー・マンチン氏は、民主党であり、グリーンを推し進めるバイデン政権のキーパーソンでありながら、「空前のエネルギー増産をせよ」ということをいい出している。なぜエネルギー増産が必要なのかといえば、理由は共和党のそれと同じです。マンチン氏の地元、ウエストバージニア州は化石燃料産業で潤うたぐさんの州のひとつです。民主党の議員であつても地元の化石燃料産業を大事にするのは、当たり前

「グレートリアクション（反抗）のシナリオ」

三つめのシナリオは「グレートリアクション」です。公式の未来からの反抗シナリオですから、先の二つとはまったく違う世界像となります。

今、エネルギー危機が世界中で起きていて、世界中がインフレ状態になっている。もうこれはやっていけないとなり、グリーンやバブルが崩壊し、炭素が復権するというシナリオです。一年前、このシナリオをつくったときには、みんなが「ありえない世界だ」といいましたが、最近「あり得るかもしれない」という声が出てくるようになりました。

グリーンバブルの崩壊や炭素の復権を引き起こすプレイヤーとなるのではないかと私が注目しているのはアメリカの共和党です。共和党はウクライナ戦争勃発の直後から、バイデン政権を猛烈に批判しました。共和党の大物上院議員、テッド・クルーズ氏は「アフガニスタン撤退もひどいザマだったが、ガスパイプラインの制裁を解除したのもバイデンの二大失敗だ」と非難しました。

ガスパイプラインの制裁解除というのは、ロシアとドイツを直結するノルドストリームパイプラインの計画が進められていたのですが、トランプ政権時、こんなものをつくれればといえは当たり前かもしれません。今、アメリカの国会は民主党と共和党の勢力に二分していますが、それでもエネルギーに関する税、あるいはCO₂に関する規制には、民主党の議員であつても共和党と一緒に反対します。

また、アメリカ議会の公聴会には、科学者たちが年何回も呼ばれます。民主党も共和党も、互いに科学者を呼んで公聴会を開くのですが、民主党が呼ぶ科学者は気候危機説をいえるものと唱え、一方、共和党の呼ぶ科学者はデータをきちんと示しながら、気候危機の兆候はどこにもみられないという説明をする。ですからアメリカの共和党は気候危機説など信用しません。グリーンデイルなど愚かなものだと考えています。特に共和党の重鎮たちは「気候危機などありはしない」「安全保障や経済を犠牲にするなどもつての外だ」と思っているわけです。

さらに、アメリカのマインドセットで大事なことは、ロシアとの新冷戦の後ろに控えている中国の存在、つまり中国との新冷戦です。これは超党派で認識していることです。共和党の強硬派を代表するようなルビオ氏ですら、ロシアとの新冷戦には勝てるかもしれないが、中国は手強すぎるとみえています。

中国に対する認識で、もうひとつ

ドイツはロシアの奴隷になつてしまふからダメだという理由でトランプ氏はこれを止めてしまいました。これに対し、パイプもほとんどつくってしまつているし、ロシアの安いガスを使いたいとドイツが一生懸命に頼んだところ、バイデン大統領はOKを出してしまつた。一方で、バイデン大統領は自国の石油パイプライン「キーストンエクスセルパイプ」を大統領就任の初日にとめてしまつた。これが機能していれば、今のアメリカのガソリン価格高騰は相当程度抑えられていたといわれています。

二つのパイプラインの話は象徴的で、バイデン大統領はロシアのガスやエネルギー開発にOKを出しながら、自国の石油産業、ガス産業には痛めつけるようなことばかりをしています。これを共和党は厳しく批判をしているわけです。

別の大物上院議員、マルコ・ルビオ氏も「最大の対ロシア制裁は、今すぐ愚かなグリーンデイル（脱炭素）をとめることだ」といっています。トランプ氏だけでなく、共和党の人たち、特に重鎮たちは一様に、グリーンデイルは愚かな政策だと断言しています。

ロシアの経済が石油やガスの輸出に依存し、毎日一千億円以上の収入を得て、そこから軍事費が出され、大事になつてくるのが太陽光発電です。最大の問題は、その生産の八割を中国が握つていて、さらにそのうちの半分を新疆ウイグル自治区でつくつているという点です。ですからアメリカは、新疆ウイグルでつくられた太陽光発電の諸々に関する輸入を禁止しました。EUでも法案の検討を開始しており、二年後には禁止になると思われます。

イギリスでは昨今の今頃から、脱炭素、ネットゼロは考え直すべきだという人たちが与党保守党から出てくるようになってきました。今、三十人くらいの党内グループになつているかと思いますが、中心人物は、元ブレグジット大臣のベイカー氏です。「あまりにもエネルギー価格が上がり過ぎて、暮らしては成り立たなくなつていく。産業も潰れそうになつていく。ネットゼロなど見直すべきだ」といい、「反脱炭素はブレグジットに次ぐ聖戦だ」とまでいっている。ヨーロッパはこれまで環境問題を理由にシェールガスを掘り出してきませんでしたが、イギリスで遅ればせながらガス開発をするかしないかの議論が始まっています。

反抗のシナリオであるグレートリアクションとは、エネルギー危機が続く、インフレも続き、世界中が金融と財政を引き締めざるをえなくなる未来像です。このシナリオでは、

倶楽部だより



津賀理事長 挨拶



記念講演講師
杉山 大志氏

十一月四日(金)、中央電気倶楽部創立一〇九周年を祝し、約八十名の会員の皆様が集い、特別講演会を実施いたしました。開会挨拶の冒頭、津賀一宏理事長(パナソニックホールディングス株式会社 取締役会長)は「倶楽部が創立一〇九周年の佳き日を迎えることができたのも、脈々と続く先輩諸兄のご尽力や会員各位のご支援の賜物である。」と謝意を表しました。

そして、二〇二五年には大阪万博が開催され、倶楽部の設立当時のように大阪が繁栄し、賑わいと新たな文化の中心地として発展することを大いに期待しているが、そういった中において、歴史と伝統ある当倶楽部もこの地で存在感を発揮できれば何より。そのためにも当倶楽部はこれからも「人が人を呼ぶ倶楽部」をモットーに、会員が生き活きと活動し、人脈を拓けていたく場となるよう努めたい。」と述べるとともに、一層の倶楽部の利用と新たな会員の紹介を呼びかけました。

続いて、キャンングローバル戦略研究所 杉山大志研究主幹により「ウクライナ戦争後の脱炭素とエネルギー政策」と題して記念講演が行われ、最近の世界情勢に即した貴重な話をうかがいました。

お忙しい中、多数ご参会いただきました会員の皆様に御礼申し上げます。



絵画部(水彩画)は、十月二十八日(金)より十一月四日(金)まで西館囲碁室前で倶楽部創立一〇九周年記念展示会を開催致しました。

たくさんの方々にご観覧いただきましてありがとうございました。絵画部部員一同感謝申し上げます。

今後も良い作品を描いてまいりますのでよろしくお願ひ致します。

また、新入部員も募集しておりますので、興味のある方は入部をお待ちしております。

中央電気倶楽部創立一〇九周年 記念特別講演会実施

倶楽部創立一〇九周年 記念展示会開催

写真部撮影会 「二尊院」で実施



二尊院 撮影会にて

十一月十七日(木)に写真部は「二尊院」で撮影会を開催しました。「二尊院」の総門を入った「紅葉の馬場」と呼ばれる参道は、紅葉の名所として知られ、また奥には小倉百人一首ゆかりの藤原定家が営んだ時雨亭跡と伝わる場所があり、小倉あん発祥の地として知られています。当日は秋晴れに恵まれ、撮影会を前後して、嵐山「花筏」で日本料理に舌鼓を打ちながら、写真談議に花を咲かせました。

図書だより

一階図書室では、左記の図書を新たに収蔵いたしましたので、貸出等のご利用をお待ちしております。

ご利用の際は、一階受付までお申し出下さい。

◎寄贈図書

「江戸のジャーナリスト 葛飾北斎」
ご寄贈者 千野 境子 氏
令和四年十一月十一日
午さん会講演 講師

講演録 ウクライナ戦争後の脱炭素とエネルギー政策

アメリカの共和党が中間選挙で勝利し、二年後の大統領選でも共和党候補が勝ちます。太陽光発電も電気自動車も、今は政府支援がありますが、金融も財政も引き締められるグレートリアクションの世界像になれば、政府支援などありません。脱炭素政策も後退してきますから、なおさら

日本はどうか。アメリカが共和党政権となり、日本も一緒にエネルギードミナンスをやるべしと迫ってきたら考えを変え、日本でも化石燃料が復権し、小泉氏と河野氏が押し込んだ再エネ最優先という話も取り止めにする。そんな対応をすることになるのだろうかと思えます。

～さつごころ～

公式の未来である「グレートトリセット」なのか、脱線の未来である「グレートデレイル」なのか、反抗の未来である「グレートリアクション」なのか、三つの世界の未来像の話をしました。

どうも世の中ではグレートデレイルの方向、つまり先進国が減んでいくような話になりかけている。そのなかでアメリカは共和党が勢いを盛り返しつつあって、グレートリアク

ションのシナリオへと移行しつつあるようにも思える。そんな状況で、日本政府は今何をすべきかという視点では、日本もアメリカのように「エネルギードミナンスだ」といえば恰好よいのですが、残念ながら肝心の資源がありません。しかし、アメリカと一緒にインド太平洋エリアでのエネルギードミナンスを実現していくことは可能です。

事実上、エネルギーを新しく生み出すことになる原発の再稼働も可能です。原発再稼働によってガスを余らせることができるのなら世界市場に再販すればいい。ヨーロッパも東南アジアもガスに買い負けて困っている国はたくさんありますから、世界の国々も喜びます。CO₂排出量削減の流れで遠慮し、稼働しきれない石炭火力もフル稼働に持つていく。エネルギー関連の諸々についても、補助金ではなく減税へと切り替えていく。そうなれば当然、再生可能エネルギーにまつわるものへの補助金はなくなりますが、一旦止めればよいだけの話です。

CO₂排出量削減が十年遅れたらどのくらい気温が変わるのかは、先ほどお話をした計算式で求められます。気温は0.005度上昇します。日本のエネルギーの安定供給と

0.005度の気温上昇、二つを天秤にかけたとき、どちらが大事なのでしょうか。私の答えは前者となりません。

(令和四年十一月四日
講演抄録文責在記者)

今年度冬の節電について

今年度冬季、政府が企業に対し節電への協力要請をいたします。

当倶楽部も節電に賛同し、本館エレベーターのうち一基を原則終日運転休止とさせていただきます。

※期間

(十一月二十一日(月)
～令和五年六月末日まで)

ご不便をおかけしますが、ご協力をお願いいたします。

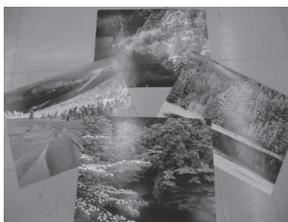
●●●●● 理髪室からのお知らせ

平日：午前十時～午後三時(土曜休み)
料金：カットのみ 二、〇〇〇円
(会員) カット＋洗髪 二、五〇〇円
カット＋顔剃 二、五〇〇円
フルコース 三、〇〇〇円
女性顔剃・美顔マッサージ付 一、五〇〇円

※各種趣味のビデオテープもありますので、ご自由にお楽しみ下さい。

●●●●● 絵画部だより

絵画部(水彩画)教室、十一月度(二日・水曜日)の画材は、「静物・風景」でした。



次回は十一月七日(水)「静物・風景及び人物模写」です。

・優勝コメント

春秋の季大会での優勝は初めてなので、とても嬉しく思っております。当日の組み合わせ(六試合)で最後の試合相手が富山さんになっていたので、お互いに決勝戦になる様に勝ちを重ねて行きたいネ、と試合前に話していたのが本当にどちらかが勝てば優勝の一戦になり、今回は「勝運の女神」が私に微笑んでくれた様です。
今後共、精進を重ね、勝ち負けに拘ることなく「運否天賦」の精神で撞球を続けて行きたいと思っておりますので、皆様にはよろしくご指導をお願い致します。
お相手して頂いた方々、ありがとうございます。
(次回例会は十二月三日(土))

第八百四十三回 いなづま句会
俳誌「かつらぎ」主宰 森田純一郎先生 指導
令和四年十月十五日
兼題 当季雑詠五句
選者 吟
秋風に句想次々湧きにけり
己が非を認めぬ汝に爛冷むる
熱燗を注ぎくるる指細きかな
榎の実や彼方の山の平らなる
笠智衆撞きし鐘ある寺の秋

◎囲碁部例会(十一月十二日)

成績
三勝 四段 廣川 強士 君
〃 三段 田中 泰 君
二勝 四段 水島 健一 君
(参加者 七名)

(次回例会は十二月十日(土))

◎将棋部例会(十月二十日)

成績
三勝 五段 楠本 光秀 君
二勝 六段 井上 清志 君
(参加者 五名)

十一月の例会はありません。

(次回は初指し会(指導あり)一月七日(土))

例会は二月二十八日(土)

いなづま句抄

- 秋の蝶(とそつ)と風どけたし 富山 勝幸
○旅人にやさしき街の夜霧かな 難波 正行
○秋寒し友の絵画を寄附すれば 渡邊 建彦
○手刈りせし新粟だけは納屋に干す 東代 舞
○あまりにも水澄み魚影見せりけり 広田 祝世
○主峰置く空は真青やななまど 奥村 恵子
○フェルメールブルー纏ひて秋天下 友岡 淑子
○長き藻を梳る水澄みにけり 前野美枝子
○縹雲腹から染まる夕焼けに 留岡 寛
紅葉の樹林疾走久方や 野尻 弘輔
堰落つる水の白きよ風は秋 木下 貴友
わが窓辺常連のごと色鳥来 出店智恵呼
(○印選者選)

(注) 秋の蝶(あきのちょう)・・・立秋を過ぎ

てから見かける蝶のこと。春や夏の蝶にから比べるといくらか弱々しい印象を受ける(季語)
秋寒し(あきさむし)・・・季語「やや寒」の傍題で、少し寒いというほどの秋の寒さ(季語)
フェルメールブルー・・・オランダの画家、フェルメールの「真珠の耳飾りの少女」などの作品に見られる青色のこと
秋天下(しゅうてんか)・・・季語「秋の空」の傍題で、青く澄みきった秋の空のこと(季語)
色鳥(いろどり)・・・秋に渡ってくる美しい小鳥のことをいう(季語)

◎第五五六回 ゴルフ部例会

(令和四年十一月十五日 晴れ
於伏尾GC)

成績
優勝 石田 貴志 君
二位 藤本 一平 君
三位 中野 米蔵 君

・優勝コメント

絶好のゴルフ日和のなかで楽しくラウンドさせていただきました。
難しいコースセティングでしたので無理をせずに安全第一を心掛けた結果、優勝に繋がりました。

ご一緒いただいた井上清志様、河内正志様有難うございました。

(次回は、第五五七回例会)

令和四年十二月七日(水)

花屋敷GC)

◎撞球部秋季大会(十一月五日)

成績
優勝 籠谷 勇 君
二位 佐々木 孝 君
三位 富山 勝幸 君
四位 奥谷安規子 君
五位 馬場 秀行 君
(参加者 十三名)

他倶楽部案内

清文社の午さん講演会のご案内

会場：ANAクラウンプラザホテル大阪
五階ガーデンルーム
時間：十一月三十分～十三時三十分

十二月六日(火)

講題「森を聴く」―演奏と講演―
N音楽企画副代表/ヴァイオリニスト
中西 寛嗣 氏

十二月十三日(火)

講題「未定」
同志社大学法学部教授
村田 晃嗣 氏

※状況により中止になる場合があります。

◆出席ご希望の方は、当倶楽部事務局

(三瓶)に二日前までにお申し込み下さい。

◆会費/三、〇〇〇円(昼食代消費税込後日精算)

前日の午後五時以降は、キャンセル料が発生します。

☆ネクタイ着用